

京田辺市の子どもたち と地域のつながり



1 伝統行事・名産のあるまちの子どもたち

①大住隼人舞	(北部) 大住地区
	<p>月読神社では、毎年10月14日に大住隼人舞が奉納されます。大住隼人舞は、飛鳥時代に九州南部から移住してきた大隅隼人（おおすみはやと）が朝廷で舞った隼人舞を近年復元したもので、市の無形民俗文化財に指定されています。中学生が演じる6種類の舞と、小学生が演じる1種類の踊りからなる大住隼人舞は見応えがあり、多くの見物客が訪れます。</p>
②おんごろどん	(南部) 宮ノ口・江津地区
	<p>宮ノ口・江津区に伝わる農耕神事。「おんごろ」とはモグラのこととで、農作物の大敵であるモグラを追い払い、その年の豊作を祈願する。毎年、小正月の夜、数名の男児が、手にわらを芯にして縄を巻き付けた横槌と呼ばれる棒を持ち、庭先や玄関の地面を力一杯叩いてモグラを追い払う。</p> <p>横槌の作り方は代々お年寄りから伝えられ、地面を叩いたときによい音が鳴るよう各家で様々な工夫されています。</p>

③玉露の産地として	(中部) 草内・飯岡地区
	<p>玉露の産地として、お茶の栽培・加工について学びながら、実際に高級玉露を淹れて味わうという体験も行っています。</p> <p>地域の名産を大切にし、それを伝えていく重要さを学んでいます。</p>
④どんど	(全地域)
	<p>小学校の校庭などに青竹でやぐらを組み、正月の注連縄（しめなわ）や門松などを藁と一緒に結びつけて火をつけます。</p> <p>この火にあたると若返る、餅を焼いて食べるとその年の病を除く、書初（かきぞめ）を焼いたときにそれが高く舞い上がると言われ、年始めの地域行事として親しまれています。</p>

2 文化学術研究都市の一翼を担うまちの子どもたち

	<p>大学のあるまちとして、同志社大学・同志社女子大学・同志社国際中学校・同高等学校と相互の人的、知的資源の交流と物的資源の活用を推進していくため、連携協力に関する協定書を締結しています。</p> <p>この協定に基づき、年間を通してさまざまな連携事業を行っています。</p> <p>(写真：同志社女子大学 学生による「小学校での国際理解学習」の風景)</p>
	<p>同志社大学との連携事業の一環として、小学生から中学生のことどもたちを対象とした「サイエンスアカデミー」が2018年から開催されています。</p> <p>子どもたちの理科への興味・関心を高めてもらおうと、理系学部の先生たちが年齢に応じた実験教室を開催しています。</p>

3 スポーツによる魅力づくりに取り組むまちのこどもたち

①全国小学生ハンドボール大会の開催	(全地域)
	<p>毎年8月、全国小学生ハンドボール大会が田辺中央体育館ほか会場で開催されます。</p> <p>昭和63年の京都国体で、本市がハンドボール協議会場となつたのを契機に毎年開催され（新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年は中止）、今年で35回目を迎えます。</p> <p>この大会に出場した児童の中から、世界的なプレーヤーを多数輩出しており、本市が「ハンドボールの聖地」と呼ばれる所以です。</p> <p>現在、学校ハンドボールチームのクラブチーム化を受け、地域との関係はより密接となっています。</p>
②ツアーオブジャパンの開催	(南部) 普賢寺地区
	<p>日本代表するU.C.I（国際自転車競技連合）公認国際自転車ロードレース「ツアーオブジャパン」（京都ステージ）が本市及び精華町を舞台に開催されています。</p> <p>開催市の子どもたちとして、国際レースを身近に感じができる素晴らしい機会となっています。</p> <p>（新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2022年は開催見送り）</p>

